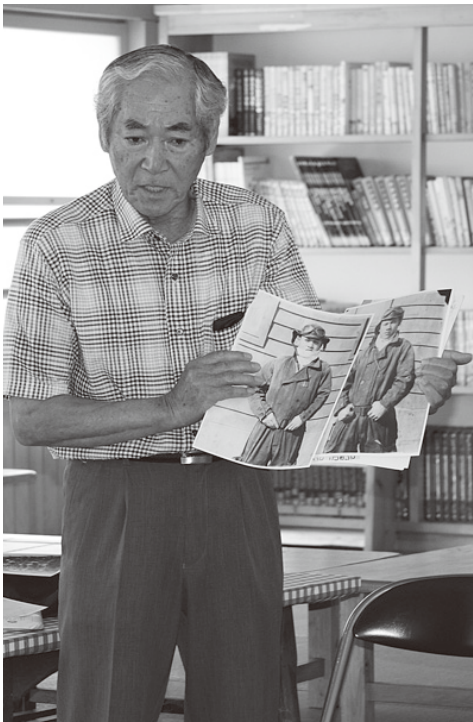


語り継ぐ戦争の記憶 若者たちへのメッセージ



▲特攻隊の方々の写真を持つ平尾さん



▲平尾さんの話しを聞く児童

第二次世界大戦集結から68回目の夏。8月6日、町内では、原爆記念日、終戦記念日を迎えるにあたり、全小中学校で一斉に「平和学習」が行われ、子どもたちは戦争の悲惨さを学び、平和の大切さについて考えました。八津田小学校では、6年生が修学旅行先の長崎で学んだことについての発表を行い、平和の尊さを伝えました。その後、戦争体験者の平尾公輔さん（今津）を講師に迎え、平和学習の一環として講演会が開催され、3・4年生が参加しました。

平尾さんは「わたしは皆さんと同じ小学校3年生の時に戦争を経験しました。当時、半年間特攻隊の方々が家で共に生活をし、その方々が戦地に飛び立つ時が一番印象に残っています。思い出すと悲しくなるので、本当は当時のことは話したくないです。でも亡くなったこの特攻隊の方々が『みなさんに話をしてくれ。戦争を伝えてくれます。』と私に呼びかけてきます。なので、今日話をしに来ました。この小学校の敷地内に防空壕があり、空襲のサイレンとともに防空壕に入らねばならず、空襲ばかりで勉強することも遊ぶこともできませんでした。真夏でも防空頭巾を被り、食べ物が無く、何でも食べていました。戦闘機から狙われ、やっと思いで逃げたこともありません。子どもだからと関係無く撃ってくるのです。」と自身の経験を語り、「戦争は絶対にしてはいけない。平和の時代を築いて欲しいです。そして今日私が話したことを必ず家族の方に話して欲しい。」と子ども達に涙ながらに話をされました。



▲原爆展



▲6年生が修学旅行で学んだことを報告



▲平和集会（八津田小学校）

平和への祈り 心から願いを込めて

8月8日には中央公民館で築上町戦没者追悼式が行われました。これは、先の大戦で亡くなられた方々を追悼し、平和を祈念するため、毎年行われています。出席者は、戦火に倒れた方々に黙祷を捧げ、戦争のない未来を祈りました。

今も世界の国々では、戦争が起こっています。平和の尊さ、命の大切さを知り、平和に向かつて歩く必要があります。戦争を知らない世代の人たちが増える中で、こうした戦争体験者の方々の話しを心に刻み、平和への祈りをつなげていきましょう。



▶築上町戦没者追悼式

